



〇いろいろ

かつて授業で色彩の学習をするとき、「いろのいろいろ」と題したおやしギャグを中学生に投げかけていました。まあ「いろいろ」を漢字で書けば「色々」ですから、私が作ったギャグというわけでもありませんね。

本校の「造形」の授業でも色彩に関する内容の学習があります。九月から始まる授業の教材研究をしながら思ったこと、見つけたこと、思い出したことなどをつづってみようと思います。

徳山のキャリアデザイン専門学校では学生たちは色彩検定を受験しますので、色彩の学習も専門的な用語が出て覚えておかなければならないこともたくさんありますが、保育士にとっての色彩学習はあくまでも子どもたちの成長を支援するためのものです。覚えるというよりも子どもの気持ちになって感じ取るの方が大切になってくるでしょう。

そうはいつでも共通する学習内容はあります。まずは色の三要素（三属性）です。①色相②明度③彩度のことです。①は色みのことです。「人相」ということばがあるように、色の顔といってもよさそうです。私たちの身の回りにはたくさん色があります。それをまとめたのが色相環（図 A 参照）です。②は明るさの度合いのことです。どんな色も明度がひたすら高くなっていくと白に近づいていきます。反対に低くなっていくと黒に近づいていきます。③は鮮やかさの度合いのことです。文章で説明するのは難しいのでこれは省略します。

次に色の対比のことがあります。KOCHO だより 96号で補色のことを記述しましたので、これは省略。明度対比が一番分かりやすいかな？同じ明度の灰色でも周りの色の明度が高いか低いかでいわゆる“濃さ”が違って見えます。（図 B 参照）まわりのものに影響されるというのは、人間関係においても同じようなことがありますね。おもしろい。

2歳くらいの子どもは色の名称が分かるようになり、盛んに「これあか。」とか「これあお。」とか確認して回ります。子どもの目と心には発見と驚きの連続なのでしょうね。

次に色の「混合」についてです。小学校高学年から中学生の時期に、下書きは比較的うまく描けたのに、絵具の混ぜ方・塗り方などが分からずに失敗して絵画制作が苦手になったという人は多いようです。

絵具の混合では色が多ければ多いほど濁っていき、暗い灰色になります。それに対して光は混ぜる色が多ければ多いほど白（透明）になっていきます。劇場ではいろいろな色のスポットライトが使われますが、すべての色を主役に当てると（混ぜると）白（透明）になるのを見たことがあると思います。昔のテレビのブラウン管に超接近して見ると無数の赤・青・緑の粒が見えました。離れてみるとそこは真っ白いワイシャツだったという経験をしたのは私だけでしょうか？

いろいろと記述していますが、伝えたかった本題が何だったか分からなくなりつつあります。今回はこのあたりで終了。続きがあるかな？

〇自校自賛

おやすみ



B 明度対比

